

宮城県の景況判断

総括判断

最近の県内景況をみると、震災復興需要の反動などから回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している。

概 況

生産は足元弱含んでいる。需要面の動きをみると、公共投資は震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している。住宅投資は一部で上振れしているが、震災に伴う建替需要の反動などにより基調としては減少している。個人消費は概ね横ばい圏内の動きとなっている。雇用情勢は総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている。

今月のポイント

海外需要向けの生産活動の低下や関連する労働需要の減少など、激化する米中貿易摩擦の影響が製造業を中心に強まっています。一方、個人消費は、改元ムードや超大型連休などから財布の紐が幾分緩みましたが、今後、連休後の反動や相次ぐ食料品の値上げなどにより下押し圧力が強まり、小売業や対個人向けサービス業の逆風となることも予想されます。

(参考)県内景況判断の推移

	2019年4月	5月	6月
総括判断	震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している (据え置き)	震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している (据え置き)	震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している (据え置き)
生 産	概ね横ばい圏内で推移している※	概ね横ばい圏内で推移している	足元弱含んでいる
個人消費	概ね横ばい圏内の動きとなっている	概ね横ばい圏内の動きとなっている	概ね横ばい圏内の動きとなっている
住宅投資	建替需要の反動などにより基調としては減少している	一部で上振れしているが、建替需要の反動などにより基調としては減少している	一部で上振れしているが、建替需要の反動などにより基調としては減少している
公共投資	震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している	震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している	震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している
雇用情勢	総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている	総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている	総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている
企業の景況感	(2018年7～9月) 持ち直しの動きが鈍化している	(10～12月) 持ち直しの動きが鈍化している	(2019年1～3月) 総じて弱めの動きとなっている

※「平成27年基準 県鉱工業生産指数改定」に伴う基調判断の改定

注)下線は前月(回)からの変更箇所

宮城県の経済情勢に関するより詳細な情報については、機関誌「FLAG」および「77R&C会員情報サイト」にて、ご覧になることができます。